



リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.61 JCHO 神戸中央病院 医療安全管理者 看護師長 足立一樹 様



【病院外観】



【足立様】

■病院の沿革と概要

昭和 23 年：健康保険神戸中央病院として開設

昭和 61 年：現在地に新築移転

平成 26 年 4 月：地域医療機能推進機構のグループ病院として病院名を改称

六甲山系の高台に位置し、神戸市北区を中心とする地域の基幹病院として、急性期医療から慢性期、緩和ケアまで一貫した医療を提供している。

病床数 424 床（緩和ケア 22 床、人間ドック 16 床を含む）

医療機能評価機能認定病院（Ver.6.0）

■病院理念・基本方針

病院理念

地域の皆様に信頼される病院として、安全で質の高い医療を提供致します。

病院の基本方針

1. 患者様の知る権利と自己決定権を尊重します。
2. 患者様に対し診断・治療についてわかりやすく説明し、安心していただけるチーム医療を実践します。
3. 良質な医療を提供できるよう自己研鑽に努めます。
4. 地域の診療所や病院・福祉機関との連携を推進し、医療・保健・福祉の向上に貢献します。

1. 組織体制と医療安全管理者の業務について

—医療安全に関する組織体制についてお聞かせ下さい。

当院では、院内の医療安全の管理、推進を目的として院長直下に「医療安全部」があります。医療安全部は、部長の副院長と医療安全管理者の私で組織しています。医療安全部の下には、各部門の長が兼任する医療安全推進者がおり、医療安全部と各部門間の連絡および各部門における医療安全の管理、推進を行っています。

また、委員会としては「医療安全管理委員会」があり、月に一度 1 時間程度で前月のインシデント事例の報告や事例分析と対策の検討、マニュアル改訂の報告や検討などを行っています。

委員会のメンバーは、委員長の副院長、副委員長の私、医療安全推進者の中から臨床部門の長で構成しています。

—医療安全管理者（足立様）の主な業務内容をお聞かせください。

医療安全管理者としての私の主な業務内容は、以下の通りです。

- インシデント、アクシデント報告のチェック
- インシデント、アクシデントの把握と防止
- 事故発生時の現場対応
- 医療安全に関する委員会、会議への参加
- 医療安全に関する情報提供
- 院内研修会の企画・運営
- 患者、家族からの苦情・クレーム対応

2. 転倒・転落事例の収集と対策について

—事例報告から防止策の実施までの仕組みをお聞かせ下さい。

まず、インシデントが発生した場合、担当者が電子媒体からインシデントレポートを報告します。アクシデント（影響度 3b 以上の事例）が発生した場合も電子媒体から報告しますが、タイムリーに状況の把握や対応を行うために私の在席中であれば電話連絡をしてもらっています。報告後は、できるだけ迅速に現場を訪問し、現場の医療安全推進者と協力して状況の把握や原因究明に努め、対策を検討しています。

また、特に注意、検討を要する事例の場合、医療安全管理委員会で報告し、対策を協議しています。

—近年の転倒・転落事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

ここ数年の発生件数は、ほぼ横ばいで増減なしです。インシデントは年間約 350～360 件なので、平均で 1 日に約 1 件発生し、アクシデントは年間で約 10～15 件発生しています。当院の入院患者さんの平均年齢は、約 65～70 歳で高齢者の割合が増えており、比例して転倒・転落の因子である認知症やせん妄がある方も増えています。その反面で発生件数が増加していないのは、様々な対応策の効果があり、事例の発生を抑制できているのかなと思います。

—その他、事故防止のために特にされている活動はありますか？

患者さんの療養環境、看護ステーション内の整理・整頓、麻薬、医療機器の管理や取扱いのチェックを目的として、私と看護部の委員が全病棟をラウンドしています。ラウンド中に問題が見つかった場合は、部門の医療安全推進者と協議し、改善してもらいます。

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

—医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

医療安全に関連する院内全体研修のテーマとしては、これまで医療安全と感染症対策を組み合わせた内容や、医療訴訟に関して弁護士を招いて講演していただいたり、医療事故に遭われた患者さんを招いて体験を話していただく内容の研修を実施しました。

その他にも毎年の新入職者に対しては、院内の体制や報告の手順など基本的な内容を私が講演しています。

—地域医療機能推進機構（JCHO）では医療安全に関してどのような連携をされていますか？

当院が所属する地域医療機能推進機構は今年4月に発足したばかりですが、機構内の報告システムがあり、毎月報告を行っています。先々では本部で集積したデータの活用方法が検討されると思います。

4. 離床センサーについて

—現在、何台位の離床センサーを導入されていますか？

現在、5機種53台の離床センサーを導入しています。多くは床に敷くタイプですが、他にもベッド上に敷くタイプ、ベッドの端に敷くタイプ、赤外線タイプを導入しています。

—導入機種はどのようなポイントで選定されましたか？

初めて導入したのは、センサーにケーブルが付いているタイプでしたが、コードレスタイプが出てからはそちらを追加導入しています。導入機種の選定は、使用する看護部からの要望に基づいて行っていますが、コードレスタイプはコードがないので設置が非常に簡単で、コードを引っ掛ける事もなく安全性が高い事で評価が高く、選ばれていると思います。

—離床センサーの必要台数は充足されていますか？また今後どのようなタイプの導入をお考えですか？

現在の導入台数は、稼働ベッド数に対し約15%程度ですが将来的には約30%必要になると考えています。ポータブルトイレや車いす用のセンサーはまだ導入していませんが、デモ機を試用したところ非常に有効だったので、今後は、ベッドまわりのセンサーと合わせて導入して行きたいですね。

5. 最後に何か一言お願いします！

医療安全においては、医療者と患者双方の話をしっかりと聞く事が重要です。

医療者、患者それぞれの立場で物事を考える事が医療安全の確立に繋がると考えます。

当院の理念【地域の皆様に信頼される病院として、安全で質の高い医療を提供致します。】に基づき、これからも責務を果たして行きたいと思えます。